

スミスシラゲガイ *Mitrella yabei* (Nomura)

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての潮下帯砂泥底にすむ。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種は三河湾湾口部、伊勢湾知多半島沖で生貝が採集されているが、個体数は非常に少ない(木村, 1996; 木村, 2000)。その後の調査では、2008年に名古屋港沖で死後間もない死殻が採集されたが、生息が確認できない。和田ほか(1996)では、危険とランクされている。引き続き、絶滅の可能性が高い種であると評価された。

【形態】

殻長約 10 mm の長い紡錘形の貝で、殻底は強くくびれ、殻口は肥厚しない。殻表は黄褐色で、不規則な褐色の縦帯をもつ。



1: 名古屋市名古屋港沖(ドレッジ水深 5-15 m), 2008 年 10 月 9 日,
2: 南知多町内海沖(ドレッジ水深 15 m), 2001 年 7 月 31 日,
木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、県内潮下帯での個体数は非常に少ない。名古屋港沖、知多半島南部から伊勢湾湾口部で死殻が採集されるが、生貝が確認できない。渥美半島から渥美外海にかけての潮下帯砂底には近似種のシラゲガイ *Mitrella lischkei* (Smith) が分布する(木村, 2017)。

【世界及び国内の分布】

日本、韓国(関, 2001)。国内では三陸海岸以南から九州まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように近年生貝が採集出来ない。古い死殻が稀に採集されるのみで、危機的生息状況である。

【保全上の留意点】

上述したように県内潮下帯の環境を保全する。本種はアマモ場周辺で生息が確認されているので、同様に保全することが必要であろう。

【特記事項】

生息水深帯がやや深く、モニタリングが困難な事もあり、国のレッドデータブックには掲載されていないが、今後絶滅危惧種とすることも考慮するのが望ましい。

【引用文献】

関德基, 2001. 新原色韓国貝類図鑑. 332pp. 関貝類博物館, 韓国.

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20.

木村昭一, 2017. 伊良湖漁港内で採集された貝類. かきつばた, (42): 6-12.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)